

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第7回）

議事概要

1. 日時：平成30年5月28日(月)14:00～15:00
2. 場所：合同庁舎4号館4階共用第4特別会議室
3. 出席者：
 - 平田 竹男 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長
 - 住田 孝之 内閣府知的財産戦略推進事務局長
 - 宮田 亮平 文化庁長官
 - 藤原 章夫 文化庁文化部長
 - 加藤 久喜 復興庁統括官
 - 風早 正毅 総務省自治行政局地域政策課国際室長
 - 奈良 俊哉 総務省情報流通行政局審議官
 - 宮川 学 外務省大臣官房国際文化交流審議官
 - 田村 公一 国税庁課税部酒税課長
 - 田仲 教泰 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室長
 - 小野 稔 農林水産省大臣官房審議官
 - 藤木 俊光 経済産業省大臣官房商務・サービス審議官
 - 瓦林 康人 観光庁審議官
 - 武市 玲子 東京都生活文化局次長
 - 延與 桂 東京都オリンピック・パラリンピック準備局次長
 - 十河 慎一 東京都産業労働局次長
 - 古宮 正章 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
副事務総長

(オブザーバー)

- 飯田 紀子 全国知事会調査第三部部长
- 細見 邦雄 全国町村会次長
- 柄 博子 独立行政法人国際交流基金理事
- 青木 早苗 独立行政法人国立美術館理事
- 木村 直樹 独立行政法人日本芸術文化振興会理事長代理
- 若井 英二 株式会社海外需要開拓支援機構専務執行役員
- 鈴木 敏文 独立行政法人国際観光振興機構グローバルマーケティング部次長

(事務局)

多田 健一郎 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局
企画・推進統括官

藤澤 秀昭 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局
参事官

※下線は代理出席

4. 議事要旨

<平田局長 挨拶>

【平田局長】

本日は、ご多忙中に多くの関係機関の方々にご出席いただき感謝申し上げます。2020年東京大会の開会まで、788日となりました。2020年の今頃は、ちょうど聖火リレーの真っ最中です。本番が近付いていく中、文化を通じた機運の醸成に向けて、取組を加速していく必要があります。

本日は、文化庁、東京都、組織委員会、オリパラ事務局の連名で、文化プログラムの全体像をまとめた資料をお示しします。広く関係者が連携して文化プログラムを一体的に推進するためのベースとしていきたいと思っております。

また、東京大会を契機として被災地の文化情報の発信を強化し、復興を後押しすることが重要です。今回から復興庁にも参加いただくことになったので、是非連携を深めさせていただきたいと思っております。

平成29年1月にスタートした「beyond2020プログラム」は、認証組織が関係府省庁・自治体等の計50組織となり、認証事業は全国へ広がってきて、認証件数は5,000件に近づいてきました。皆様の多大な御協力に感謝申し上げますとともに、更に取組が進むよう、引き続きご協力をお願いします。

本日は、関係府省庁、東京都、組織委員会などから、最近の取組についてご説明いただきます。これまで以上に連携を深めるべく闊達な議論をお願いします。

<「文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議の開催について」の一部改正>

・内閣官房オリパラ事務局より、資料1について説明。平成30年5月28日付けで、復興庁統括官が構成員に加わった。

<文化庁の取組について>

【宮田長官】

私は、2年の任期で務めさせていただいておりましたが、今後も引き続き長官を務めさせていただくことになりました。そういう意味では、より継続的に文化プログラムに取り組

ませていただける、こういう気持ちで精一杯頑張っております。

何はともあれ、文化庁は変わりました。大きく前進し、守りから攻めになった、というのが、私の実感でございます。文化の素晴らしさをいかに分かりやすく伝えるかが大事だと思っております。伝える役目は、私は得意ですので、その良さを、どんどんと前面に出していきたいと思っております。そのために今回、新たなプロジェクトチームを作り、オール文化庁体制ということで強化しながら前進していきたいと考えております。

2020年東京大会までは、先ほど平田局長からお話があったとおり、あと788日、もうあとという間でございます。これから一気にトップギアに持っていくという気持ちでおりますので、よろしくお願いいたします。また、半世紀前のオリパラを踏まえながら、新たなオリパラ体制で、オールジャパンで一致団結、連携、協力して進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

私の個人的な考えではございますが、聖火リレーというのは、47都道府県を全て回るわけですから、非常にチャンスだと思います。聖火だけではなくて、聖火に伴ってファイヤータッチをする、ファイヤーキスをする瞬間にその町々の素晴らしさを一気に発信していく。それは日本国内のみならず世界中の人たちが見ているわけです。また、インバウンド観光客に対し、空港などいろいろなところで、パブリックアートなど、インパクトの強いものを発信していきたいと考えております。同時に、現代では、文化の魅力を発信する手段としては、SNSなど、紙媒体だけではなく、いろいろなものがございます。そういったものを大いに活用し、メディアの方々とも協力しながら、発信していけたらと感じております。

2020年東京大会を、国民がわくわくする大きな祭りにしていきたいと思っております。午前中には、マスコットの名前を検討する審査会で、いろいろなアイデアを出しながら喧嘩々々の議論をしておりました。もうしばらくすると発表されると思っておりますので、またそれで盛り上がり生まれるのかな、という思いでおります。ぜひ皆様方の御協力をお願いいたします。

・文化庁より、資料2について説明。

<オリパラ事務局の取組について>

・事務局より、資料3について説明。

<関係府省庁等の取組について>

・関係府省庁等より、資料4から資料10について説明。

<東京都、組織委員会の取組について>

・東京都、組織委員会より、資料11、資料12について説明。

＜2020年東京大会を契機とした文化プログラムへの取組について＞

・内閣官房オリパラ事務局より、資料13について説明。

＜意見交換＞

【復興庁】

復興庁の大きなミッションとして、2020年東京大会で、被災地が復興している姿の情報発信がございますけれども、その中でも、文化に関する情報発信というのは、重要な要素であると思っております。皆様と協力しながらしっかりと取り組んでまいります。よろしくをお願いいたします。

＜平田事務局長より総括＞

【平田局長】

本日は、関係機関の皆様の取組の進捗状況が分かり、大変良い機会となりました。ご説明いただいた東京都、組織委員会、関係府省庁、関係機関の皆様に感謝申し上げます。

本日は、先ほど説明のありました、四者連名で文化プログラムの全体像をまとめた資料が提示されまして、この2年間、本会議をやってきましたが、ある程度進捗してきたな、と認識を共有することができたと思っております。本日ご紹介のあったライブサイトの活用など、東京都や組織委員会と政府の連携を深めていただきたいと思います。

政府の取組については、文化プログラムの全国展開等を進める方針等が示されましたが、推進体制を強化された新たな文化庁におかれては、これまで以上に中心的な役割を宮田長官の下、果たしていただき、文化プログラムの更なる組成に努めていただきたいと思います。

本日から復興庁にも会議に加わっていただきまして、関係府省庁等の厚みが増したと思っております。今後も一層の連携を深めていきたいと思っております。

引き続き、組織委員会、東京都、政府で、頻繁な情報共有・意見交換を進めて、2020年東京大会を素晴らしいものとしていきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

・閉会